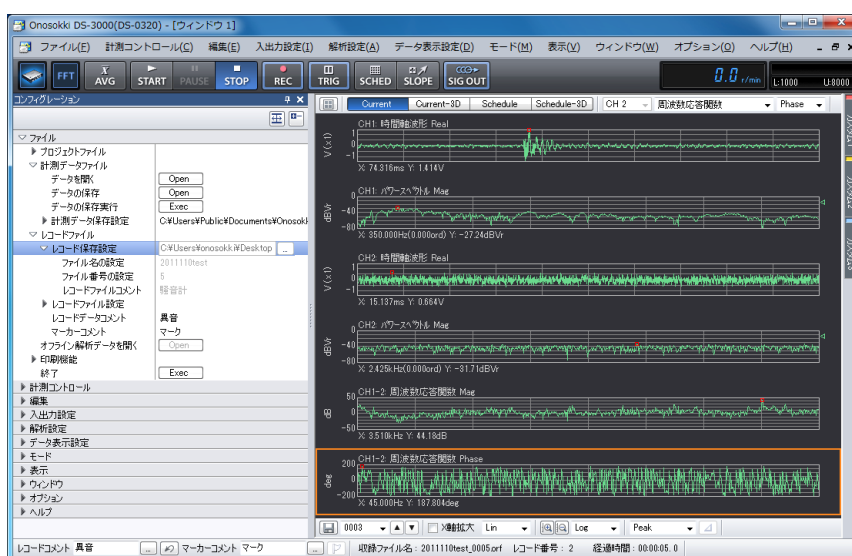


**DS-0321 FFT 解析機能ソフトウェア
データ収録（レコード）操作手順書**

DS-0321 FFT 解析機能ソフトウェア データ収録（レコード）操作手順書

本操作手順書では、データを収録（レコード）する一般的な操作手順を説明しています。データ収録は各種解析をしながら、行うことができます。

下図はパワースペクトルと周波数応答関数の解析を行いながらデータ収録（レコード）している様子を示しています。なお、収録（レコード）したデータは、リアルタイム解析と同じ操作で、オフライン解析することができます。



ここでは Ch1、Ch2 に同じデータを分岐して入力し、Ch1 は単位校正なし、Ch2 は単位校正したデータを 5 秒間、複数回収録をする例で説明しています。

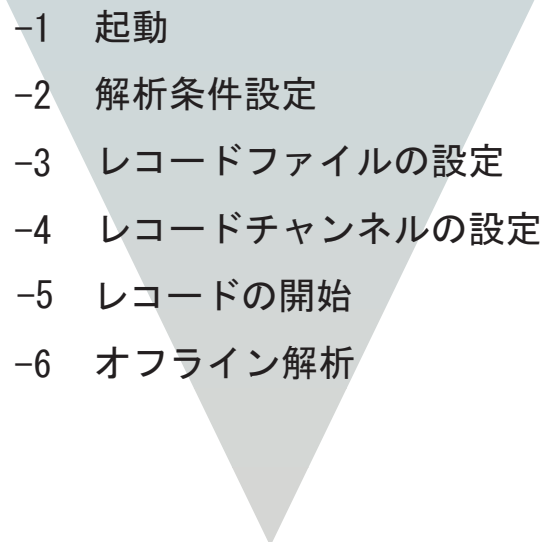
オフライン解析での基本操作は省略させていただきます。別途手順書をご参考ください。

「1 つの操作がどのような動作になるか」という機能を説明していますので、いろいろ試していただければ幸いです。

DS-3000 用ソフトウェアの主な操作は [コンフィグレーション] ウィンドウで行います。メインメニューでの操作は [コンフィグレーション] ウィンドウ内での操作に対応していますので、メインメニューからの操作説明は省略しています。なお、「コンフィグレーション」ウィンドウの操作に関しては [別紙簡易操作手順書「コンフィグレーションの基本操作」](#) を参照ください。

本操作手順書内では、連続したクリック操作による選択を “[ファイル] → [プロジェクトファイル] → [新規プロジェクト] → [Exec]” の順にクリックします”などの様に記載します。

■ 操作の流れ

- 
- 1 起動
 - 2 解析条件設定
 - 3 レコードファイルの設定
 - 4 レコードチャンネルの設定
 - 5 レコードの開始
 - 6 オフライン解析

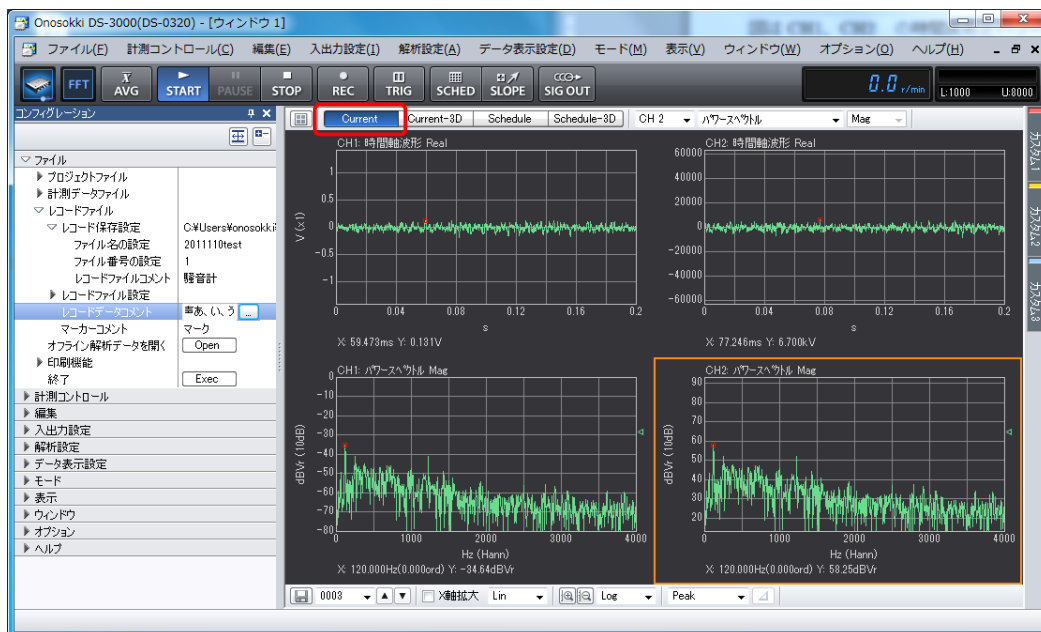
■ 操作手順

-1 起動

各機器を接続し、電源 ON 後、DS-0321 FFT 解析ソフトウェアを立ち上げます。

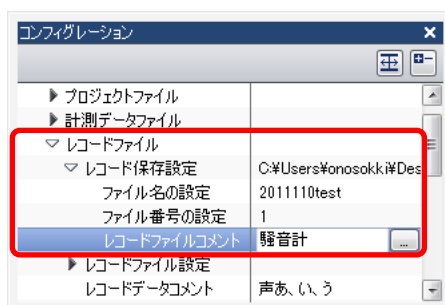
-2 解析条件設定

- ① メインメニューから [表示] → [コンフィグレーション] の順にクリックし、「コンフィグレーション」ウィンドウを開きます。
- ② 「コンフィグレーション」ウィンドウで、「周波数レンジ」、「電圧レンジ」等の解析条件を設定します。周波数レンジは大きめに設定しておく、オフライン解析時に割り切れる周波数レンジに変更して解析出来ます。下図は Ch1 と Ch2 の時間波形とそのパワースペクトルを表示しています。メインツールバー内の「REC」ボタン（レコード機能）は、グラフウィンドウ上部の [Current] 表示の時に有効です。

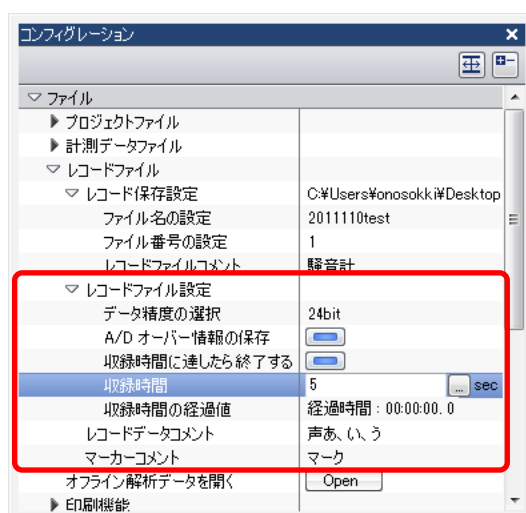


-3 レコードファイルの設定

- ① メインツールバー内の「STOP」ボタンを ON にします。
- ② 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル] → [レコードファイル] → [レコード保存設定] の順にクリックし、各項目を設定します。[ファイル名の設定] と [ファイル番号の設定] をすることで、[レコード保存設定] で指定したフォルダへファイルが保存（ここでは [201110test_001.orf]）として）されます。なお、[レコードファイルコメント] はファイル情報として画面下部に表示されます。

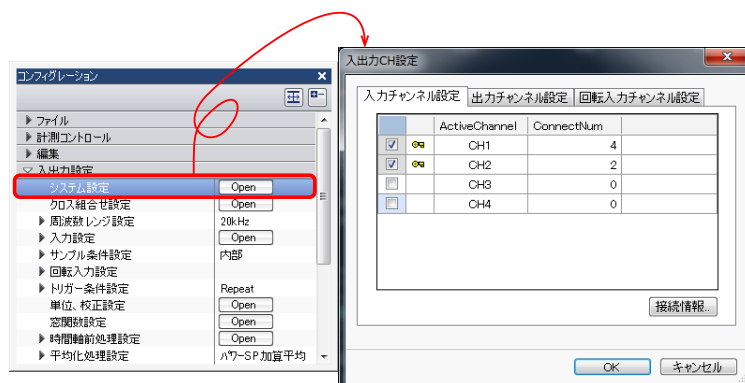


- ③ 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル] → [レコードファイル] → [レコードファイル設定] の順にクリックし、各項目を設定します。[データ精度の選択] では AD 変換精度（16bit or 24bit）の切り替えが出来ます。16bit の方がファイルサイズは小さくなります。[AD オーバー情報の保存] を ON にします。[収録時間] を 5 秒に設定します（1 回のレコードで 5 秒間のデータが収録されます）。次に [収録時間に達したら終了する] を ON にし、[収録時間] での設定を有効にします。なお、[レコードデータコメント] はファイル名の備考として表示されます。[マーカーコメント] は収録中にマーカーボタンをクリックするとマーカーを記録します。オフライン解析でファイルビューを開くと記録したマーカー位置を確認できます。



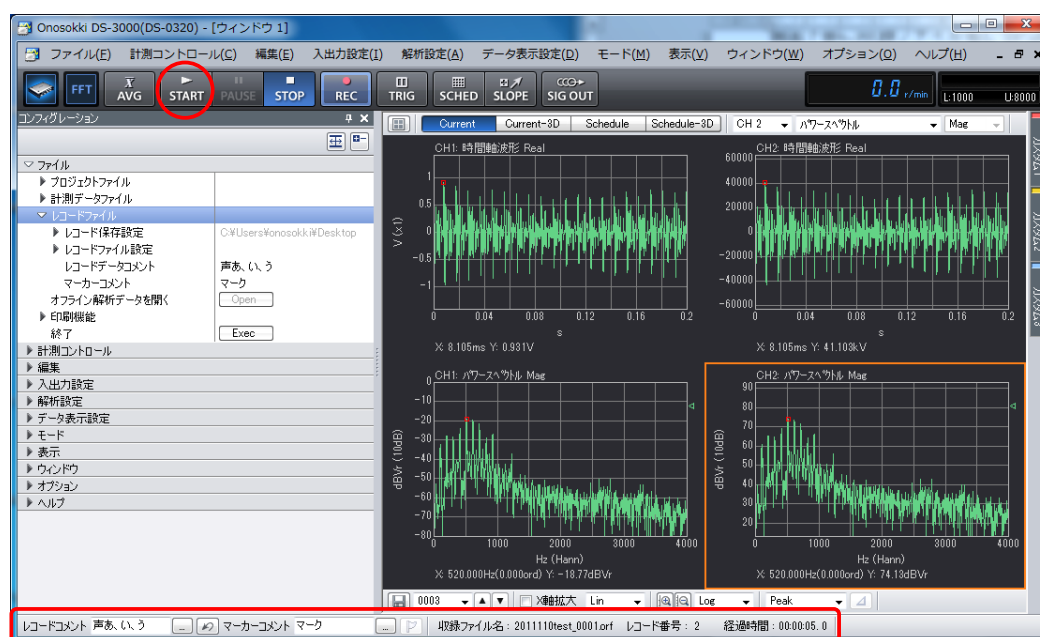
4 レコードチャンネルの設定

- ① 「コンフィグレーション」ウィンドウで、[入出力設定] → [システム設定] → [Open] の順にクリックし、「入出力 CH 設定」ダイアログボックスを開きます。「入出力 CH 設定」ダイアログボックスの [入力チャンネル設定] タブで、保存したい入力チャンネルのみチェックをいれ、その他のチャンネルのチェックを外します。保存したいチャンネルのみチェックすることでファイルサイズを小さくすることが出来ます。下図では、Ch1 と Ch2 のみチェックを入れています。

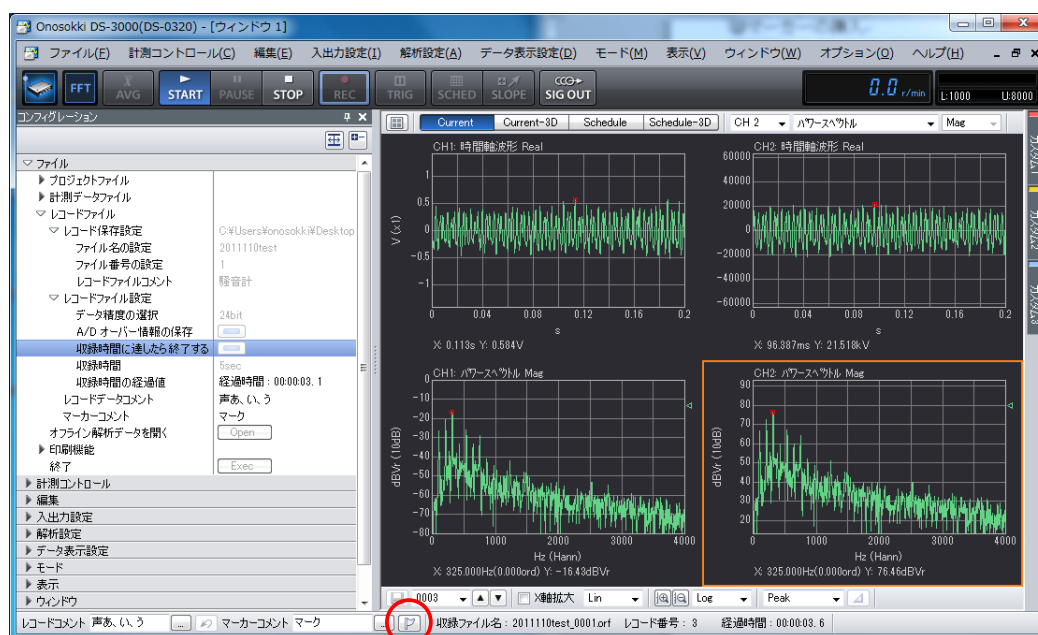


5 レコードの開始

- ① メインツールバー内の「REC」ボタンを ON にします。準備ができるとボタンに赤色で点灯します。
- ② メインツールバー内の「START」ボタンを ON にします。収録（レコード）を開始します。[収録時間] で設定した 5 秒を経過すると収録（レコード）を停止します。収録（レコード）データは [レコード番号 1] として収録されます。準備ができるとボタンに赤色で点灯します。画面下部に収録（レコード）情報が表示されます。[レコード番号 2] の表示は、次の測定は「レコード番号 2」で収録されることを示しています。

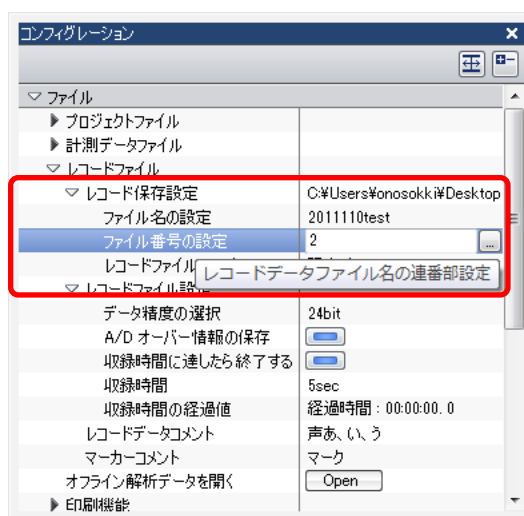


- ③ 続けて収録するには再度「START」ボタンをONにします。
- ④ マーカーをつけるには、そのタイミングで画面下部の「マーカー」ツールをクリックします。



「マーカー」ツール

- ⑤ 同様な操作で収録（レコード）を繰り返します。
- ⑥ メインツールバー内の [REC] ボタンを OFF にすると赤色が消灯し、いままで収録したデータはファイル名 [201110test_001.orf] の中に“RECORD1”、“RECORD2”・・・として保存されます。
- ⑦ 続けて「REC」ボタンを ON すると、ファイル名 [201104test_002] として保存されます。これは「ファイル番号の設定→2」と自動更新されていることによります。なお、[ファイル名の設定] を変更すると新しいファイル名で保存されます。



- ⑧ レコード中に停止したい場合はメインツールバー内の [STOP] ボタンをクリックします。

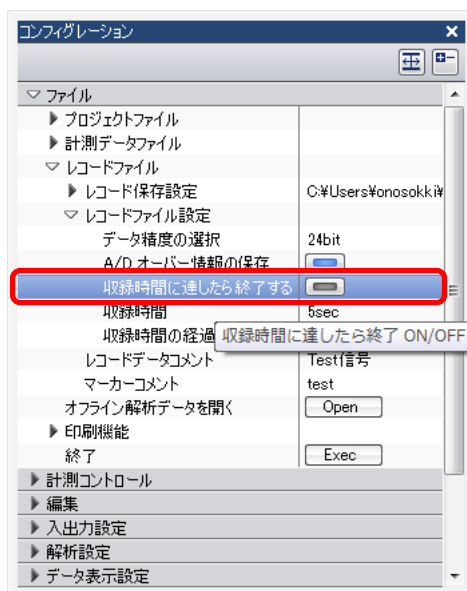
-6 オフライン解析

下図はオフライン解析のファイルビューを開いた様子です。マーカーはムラサキ色の縦線で表示されます。レコード番号を選択して解析することが可能です。



【補足】

1. メインツールバー内の「START」 & 「STOP」でデータ収録（レコード）する場合は、「コンフィグレーション」ウィンドウで、[ファイル] → [レコードファイル] → [レコードファイル設定] の順にクリックし、[収録時間に達したら終了する] を OFF にします。



2. メインツールバー内の「AVG」ボタンを ON して収録（レコード）すると、設定した平均回数に達すると自動的に「STOP」し、ここで [レコード番号1] が終了します。

● オフライン操作に関しては「オフライン解析操作手順」を参照ください

— 以上 —